

これから旬を迎える品目を紹介します！

いちごは、島原半島を中心に県内各地で生産されており、県外にも多く出荷され、本県の施設栽培^(※4)の品目では産出額が第1位です。

主な品種は、果実が大きく甘い「ゆめのか」と「さちのか」で、11月下旬頃から出荷が始まり、翌年6月頃まで出荷されます。

※4 ビニールハウスやガラス室などを利用して野菜や花などを栽培すること



施設栽培のトマト、ミニトマトは、島原半島を中心に県央地区、西彼半島、五島などで栽培されています。

産地によっては、水まきを抑制した糖度の高いトマトの栽培が行われており、ミニトマトは10月頃から、トマトは11月頃から、それぞれ翌年6月頃まで出荷されます。



スーパーなどでは長崎県産のものをお買い求めください！



問合せ 県の農産園芸課 ☎095-895-2941 長崎県 農畜産物 検索

「長崎玉緑茶」が日本一に！

本県では、^{まがたま}勾玉の形をした「玉緑茶」の生産が盛んです。国内生産量が最も多い煎茶と比べて、入れたお茶の色が明るく、渋みが少ない、まろやかな旨み特徴です。

今年9月に行われた全国茶品評会で品質が高く評価され、蒸し製玉緑茶部門で東彼杵町の尾上和彦さんが農林水産大臣賞を、また、産地賞でも、東彼杵町が1位、佐世保市が2位を受賞し、日本一の栄冠に輝きました。

県産茶を飲みましょう！

県内の販売店・飲食店等で県産茶を3種類以上取り扱っている店舗を「県産品愛用推進指定店（長崎県産茶取り扱い店舗）」に認定しています。



県産茶指定店 検索

問合せ 県の農産園芸課 ☎095-895-2941 長崎玉緑茶 検索

受賞者に聞きました！

お茶の生産を始め、23年になる尾上さんがつくる「そのぎ茶」は、「蒸し製玉緑茶」に分類され、豊かな香りと甘みが特徴です。



「こだわりは、自家製肥料を使った土づくり。安心・安全でおいしいお茶をつくることを心掛けています」と胸を張ります。

現在は、東彼杵町でお茶農家を営む同世代の仲間とともに海外に向けた「そのぎ茶」のPRを進めており、ヨーロッパやベトナム、シンガポールなどで販路開拓のために市場調査を行っています。

「そのぎ茶の品質の高さを県内はもとより県外や海外でも多くの方に知って、味わってもらいたい」と熱く語ってくれました。

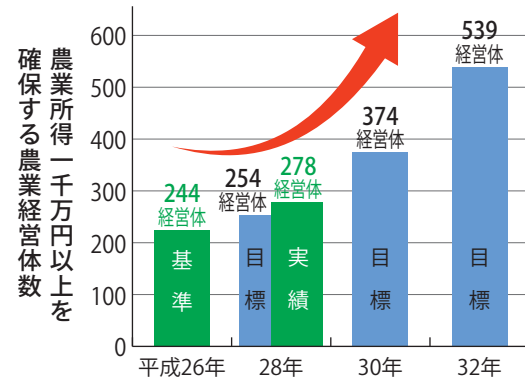
目指せ！農業所得向上

農業産出額が順調に伸びている一方、農業所得が全国に比べて低いことが本県農林業の課題です。そのため、後継者の就農意欲を高め、次の世代へ継承していくためには所得の向上が何より重要です。

県では、農地の集積や労働力の確保、園芸ハウスや農業機械の導入などにより、農業所得1,000万円以上を確保する農業経営体の育成を進めています。

農業所得の現状と目標

平成25年の農業所得	
長崎県	450万円
全国	505万円



「新ながさき農林業・農山村活性化計画」（平成28年度～平成32年度）より

経営体育成のための取り組み

支援対象者のリストアップ

5年以内に農業所得1,000万円以上の確保が見込まれる経営体をリストアップ

支援内容検討チームの設置

対象者へカウンセリングを行い、経営試算や雇用計画等を検討し、支援対象者に提案

所得向上を図る支援内容の実践

規模拡大や園芸ハウスの導入などに有効な補助事業や労務管理研修会の実施等により支援

※平成28年度から実施中

問合せ 県の農業経営課 ☎095-895-2931 新ながさき農林業・農山村活性化計画 検索

日本一を獲得した対馬しいたけ

県内の原木栽培^(※2)の乾しいたけの生産量は39.6トンで全国第8位（平成28年）であり、その99%が対馬市で生産されています。県では、「対馬しいたけ」の振興のため、生産施設の導入やしいたけ原木の供給体制整備の支援など、生産基盤の整備による生産量増加・品質向上対策のほか、対馬市と連携した担い手確保・育成対策などに取り組んでいます。

「対馬しいたけ」の品質は高く評価されており、今年6月に行われた全農乾椎茸品評会の花どんこ^(※3)の部では、対馬市の永尾賢一さん、靖子さんご夫妻が日本一の農林水産大臣賞を受賞しました。（平成26年に続いて2回目）



原木栽培のしいたけ



農林水産大臣賞を受賞した永尾賢一さん・靖子さん



日本一となった花どんこ

※2 広葉樹の丸太にきのこ菌を植え付け、増殖させてきのこを発生させる栽培方法

※3 傘の部分が開ききつておらず、肉厚で傘の表面に多数の白い亀裂がある乾しいたけ

問合せ 県の林政課 ☎095-895-2988 対馬しいたけ 検索